



この
一回
テーマ

ボランティア

現代社会の基礎サバイバル知識

vol.11

ボランティアをするからにはできる限り相手によるこぼれる行動をとりたくないもの。そのための基礎知識とは？

東日本大震災後、ボランティアへの関心が高まっている。自分も被災地に行つて力になりたい」と感じている高校生も多いはずだ。一方で、「一時」迷惑ボランティア」に関する報道も目についた。善意からの行動が現地に迷惑をかける結果になっては悲しい。そこで、全国で唯一防災に関する学科を擁し、災害ボランティアにも熱心に取り組む兵庫県立舞子高校の諏訪清二先生に、「ボランティア活動の際に心がけるべきこと」について聞いた。

「まず、『してあげる』というスタンスは厳禁です。ボランティアは現地に受け入れていただく立場。『させていただく』という気持ちが大切です。また、高校生の場合、『勉強のため』という意識で参加するケースもありますが、被災地や被災した方々は『教材』では

ありません。あくまで目的は泥かきや家の掃除といった作業。帰ったあとで体験したことを整理し、そこから学ぶことは重要ですが、それはあくまで『結果として』なのです。そのほか、例えばそうきんやモップといった必要な道具は自分で用意する、被災地や被災者の現状に関する知識をインプットしておくことも重要だと諏訪先生。

「そのうえで一生懸命仕事をしていれば、自然と被災者の方との会話や交流が生まれるものです。帰つてからも手紙や電話などで連絡を取り続けるといいですね。現地で聞いた話を家族、友達、学校、地域に広げていくことも大切な役割。そして、できれば1回だけでなく、2回、3回と現地を訪れることで被災者の方との信頼関係も深まっています」

「ボランティア」に臨むうえで大切なこと

- 1 「してあげる」「勉強のため」という意識は厳禁。そういう気持ちは態度にも表れ、相手に不快な思いをさせてしまう
- 2 できるだけ現地で面倒をかけないことが鉄則。必要な道具類は事前に調べて自分たちで準備。被災地に関する情報をあらかじめ調べておくことも大切
- 3 「行きたい」と感じたら行動しよう。

①②さえ踏まえていれば、難しく考える必要はない